

海外安全対策情報～平成30年度第1四半期（4～6月）～

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

(1) 治安情勢

ア 内政概況

3月から開始されたハルツーム石油精製所のメンテナンス及びスーダンの外貨不足問題は、国内における燃料不足を招き、全国各地のガソリンスタンドでは、ガソリンを待つ人々で長蛇の列が確認された。5月の同石油精製所のメンテナンス完了を受け、ガソリンの供給は通常に戻りつつあるが、国内需要を輸入に頼っているディーゼルは継続して不足している。ディーゼルは、発電機及び給水ポンプ等を動かすために使用されることから、農業や飲み水への影響が懸念されており、反政府行動に発展する可能性もある。

イ スーダン・南スーダン関係

OCHAの発表によれば、2018年5月27日時点で、76万5千人の南スーダン人難民がスーダンに到着しており、UNHCRの発表によれば、2018年は新たに合計20万人の南スーダン人難民がスーダンに到着すると見積もられている。スーダン政府は、人道回廊の設置、食料支援等、人道支援を積極的に行う方針を明確にしている。

2018年6月25日より、スーダン政府が南スーダン和平当事者をハルツームに招致し、対話ラウンドを開始したことで、スーダン・南スーダン間の石油協力を含む南スーダン和平に関するハルツーム宣言が発出。この間、キール南スーダン大統領が訪問中に、両国石油大臣間で南スーダン石油生産再開に関する合意が結ばれ、また、両国貿易大臣間では国境間のヒト・モノの移動の開放につき一致するなど、最近の両国関係は前向きな方向に向かっている。

ウ ダルフール地域

3月より、ジャバル・マッラにおいて、政府軍とSLA/AW軍間で衝突が断続的に発生しているが、その他の地域において、政府と反政府勢力との大きな戦闘は見られていない。一方で、政府軍とSLA/AW軍の衝突は、新たなIDP（国内避難民）を発生させている。また、5月後半には、中央ダルフール州のIDPキャンプにて政府軍とIDP間で死傷者を伴う衝突が複数発生。さらに、当該期間にも、ダルフール各地において、低い水準でコミュニティー間の衝突が発生し、複数の死傷者を出している。ただし、昨年からのスーダン政府による武器回収活動の結果、一般犯罪及びコミュニティー間衝突は改善傾向にある。

エ 南コルドファン州・西コルドファン州及び青ナイル州

南コルドファン州・西コルドファン州及び青ナイル州では、第二次南

北スーダン内戦時代に南部スーダン側として戦った将兵が多数残存し、「スーダン人民解放運動・北部勢力（SPLM-N）」として、政府軍との闘争を継続するとともに、ダルフル地域との反政府勢力と連携し、スーダン革命前線（SRF）を形成している。

政府と南部2州武装勢力との間では、長期にわたり事実上の停戦状態が維持されており、帰還民の増加を促している。他方で、各州においては、伝統的な部族間抗争による死者の発生が継続している。

オ アビエ地域

同地域は、スーダンと南スーダン両国が領有権を主張している係争地であり、両国が締結したアビエ地域行政治安暫定措置に基づいて、非武装地帯とされており、国連平和維持部隊「国連アビエ暫定治安部隊（UNISFA）」が同地域の治安維持を担っている。

同地域では、ンゴック・ディンカ族とミッセリーヤ族との部族間対立が存在し、また、スーダンの治安部隊と考えられる部隊がアビエに駐屯し、スーダン人民解放軍（SPLA、南スーダン国軍）の活動も確認されているなど、比較的安定しているが、予見可能性は低い。その一方で、アミエト共同市場は繁栄しており、同市場を巡る犯罪件数の増加が直近の課題ではあるものの、両部族の交流の場となっている。

（2）一般犯罪

ア ハルツーム州の一般犯罪については、治安機関関係者等によると、犯罪は3月から増加傾向が続き、特に、スーダンポンド安や物価上昇に伴う経済情勢の悪化が原因とみられる、ひったくりや車上ねらい等の金品目的犯罪が増加しているとされ、外国人が被害に関わる事件も報告されている。また、交差点等で見られる、いわゆる“物乞い”の若い男が、女性運転の車に対し、傷を付いたり無理矢理ドアを開けようとする事例が散見される。

イ 未だ政府と主要反政府勢力との停戦が実現していないダルフル地域や南部各州においては、依然として武装集団による犯罪行為の発生がみられており、同地域で活動する国連職員及び国際NGO職員等にとって、注意すべき情勢が続いている。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

（1）殺人

当該期間における邦人の被害事件は認知していない。

（2）強盗

当該期間における邦人の被害事件は認知していない。

（3）強姦

当該期間における邦人の被害事件は認知していない。

(4) その他

当該期間における邦人の被害事件は認知していない。

3 テロ・爆弾事件発生状況

○ カッサラ州中心部における殺傷事案

2018年3月27日、カッサラ市の中心地から30分ほど東に離れたマクラムのモスクにて、イスラム教徒同士の口論の末、礼拝者をナイフで襲撃し、3人が死亡、複数人が負傷した。加害者は精神が不安な状態にあった、アンサール・アッ=スンナ系過激派イスラミストグループに所属している等と報じられているが、事件の背景や動機等の詳細は明らかとなっていない。

○ オムドゥルマン市内における ISIL アジトの摘発

2018年6月25日、オムドゥルマン在住のスーダン科学技術大学に通う女学生が行方不明となり、27日に治安当局の大規模捜査によりオムドゥルマンの民家で同女学生が発見された。同民家は、ISILによりリクルート活動に使用されていて、同女学生も間もなくイラクに送られるところであったと報じられている。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該期間における事件は認知していない。

5 対日感情

スーダン国民は、大使館や JICA、NGO 団体の各種活動、日本製の自動車及び電化製品等の日本企業の良質な製品を通じ、一般的には日本に対して良好なイメージを持っていると思われるが、知日家、親日家と呼ばれ、日本の文化慣習に深く理解を有する人々はそれ程多くはなく、在留者の多さとその見た目から中国人に間違われることも多い。また、イスラム教を背景とした突発的な事件（イスラムへの冒流行為、飲酒に関する事故）等が発生した場合には、対日感情が急激に悪化する可能性がある。

6 日本企業の安全に関する諸問題

関連情報なし。